九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# Reduced resting-state functional connectivity between insula and inferior frontal gyrus and superior temporal gyrus in hoarding disorder

加藤, 研太

https://hdl.handle.net/2324/7363655

出版情報：Kyushu University, 2024, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution 4.0 International

KYUSHU UNIVERSITY

（別紙様式２）

| | |
|---|---|
| 氏　　名 | 加藤　研太 |
| 論　文　名 | Reduced resting-state functional connectivity between insula and inferior frontal gyrus and superior temporal gyrus in hoarding disorder<br>（ためこみ症における島皮質と下前頭回および上側頭回の安静時機能的結合性低下） |
| 論文調査委員 | 主　査　　九州大学　　教授　　磯部　紀子<br>副　査　　九州大学　　教授　　石神　康生<br>副　査　　九州大学　　教授　　神野　尚三 |

## 論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

ためこみ症（Hoarding disorder：HD）は、様々な認知制御障害と、個人の所有物の廃棄あるいは実行機能課題中の島皮質・前部帯状回における異常な脳活動によって特徴づけられる。しかしHDが安静時においても島皮質・前部帯状回の機能的結合性に異常を示すかどうかは不明なままである。申請者らはHDの神経生物学的基盤に関与すると考えられる島皮質と前部帯状回に関連する安静時機能的結合性を、seed-based analysis を用いて明らかにすることを目的に、HDに関する先行文献に基づき、HD患者は島と前部帯状回を中心とした安静時機能的結合性に異常がある可能性があるとの仮説を検証した。HD患者24名と健常対照31名の計55名が研究に参加し、安静時機能的磁気共鳴画像を撮像し、全脳ボクセルにおける島皮質と前部帯状回の安静時機能的結合の群間差を検討した。結果、HD患者では、右島皮質と右下前頭回および右島皮質と左上側頭回との間の機能的結合が、健常対照と比較して有意に低く、これらの結合性とためこみ症状との間に相関はみられなかった。臨床的意義は不明であるが、本結果は、HD患者が島皮質と下前頭回および上側頭回との間に安静時の機能変化を有することを示唆しており、これまでのHDにおける機能的磁気共鳴画像研究の結果と一致していた。これらの知見は、HDの神経生物学的基盤に新たな知見を与えるものと示唆された。

以上の研究成果はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。

なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。